

築地産院における各種母児感染実態調査

渡辺 徹¹⁾ 千田大作²⁾

藤井 仁¹⁾ 柳田昌彦¹⁾

要約： 築地産院を受診した妊婦を対象に梅毒，B型肝炎，C型肝炎，クラミジア，HTLV-Iの疫学調査を行なった。

見出し語：梅毒，B型肝炎，C型肝炎，クラミジア，HTLV-I

【研究方法と結果】

1. 梅毒

91年1月～8月に当院を受診した婦人1475例中，今回治療対象となる患者はなかった。（表1）

2. B型肝炎

89年，90年に当院でB型肝炎スクリーニングを受けた妊婦2915例を対象にHB母児感染予防成績を調査した。（表2，3）

3. C型肝炎

91年11月～92年1月までに当院を受診した妊婦474例を対象にHCキャリア率を調査した。（表4）

4. クラミジア

妊婦206例を対象にクラミジア抗体保有状況を調べた。（表5）

次に早産111例，子宮外妊娠40例を対象に抗体保有状況を調べ一般妊婦と比較したところ，子宮外妊娠で有意に抗体保有率が高かった。（表6，7，8）

5. HTLV-I

当院でスクリーニングした4289例中35例（0.82%）がキャリアと診断された。35例中1例は死産であった。（表9）

現在，全都立病産院にて妊婦のスクリーニングとキャリア母児の追跡調査を実施している。

1) 都立築地産院 産婦人科

2) 同 薬剤検査科

表 1 梅毒スクリーニング

(初診時血清 1475 例)

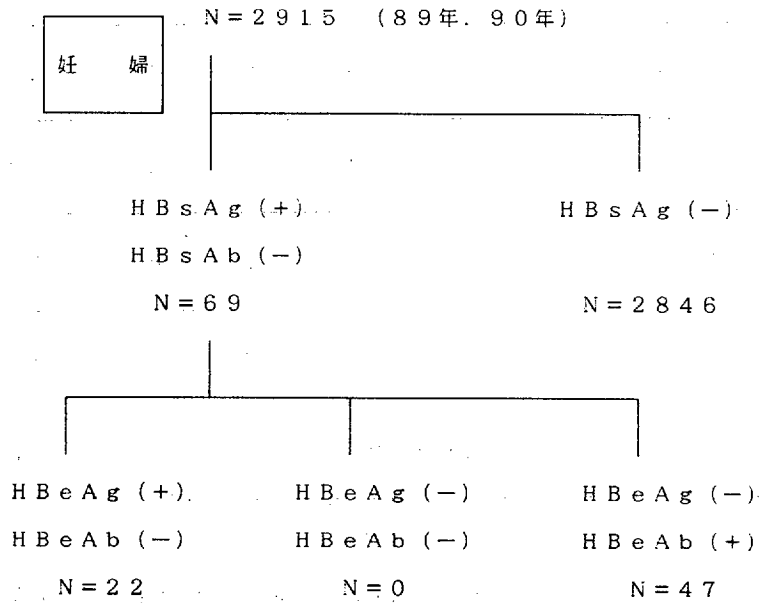
症例	R P R	T P H A	年令	経妊	経産	初診時週数	転帰
1	+	+ 160 倍	38	2	2	14 W	既治療
2	+	—	23	0	0	6 W	偽陽性
3	+	—	38	1	0	6 W	転 院
4	—	+ 320 倍	26	2	0	7 W	既治療
5	—	+ 40 倍	24	2	2	26 W	既治療

91 年 1 月～8 月の初診時血清につき調べたが、今回は治療対象となる

患者はいませんでした。

B 型肝炎スクリーニング

表 2



(1) 臍帯血のHB検査は全員陰性であった。

(2) 両グループとも新生児は全員HBワクチン接種を受けた。

(3) ワクチン接種を受けた新生児は全員HBs抗体が出来た。

(4) 新生児肝炎になった児は皆無であった。

表 3

HBsAb (+) 妊婦の夫 (88年, 89年)

N = 137

HBsAg (+)	HBsAg (-)	HBsAg (-)
HBsAb (-)	HBsAb (+)	HBsAb (-)
N = 12	N = 11	N = 114
8.8%		83.2%

(1) 臍帯血のHBs抗原検査は全ての児において陰性であった。

(2) 全グループとも新生児は全員HBワクチン接種を受けた。

(3) ワクチン接種を受けた新生児には~~全~~全員HBs抗体ができた。

(4) 新生児肝炎になった児は皆無であった。

(5) HBsAg(+) HBsAb(-) グループの12名中4名についてHBe抗原・抗体検査を行なったところ, HBeAg(+) HBeAb(-) が2名, HBeAg(-) HBeAb(+) が2名であった。

表 4 C 型肝炎スクリーニング

(1991年11月～92年1月までの全妊婦)

		P H A 法		
		+	-	
E I A 法	+	3	0	8 0.6%
	-	3	468	471
		6	468	474

1.3%

同一検体を凝集法とE I A法で検査した。P C R法を施行していないので、

Gold standardがないが、凝集法の特異性が考えられる。

表 5 妊婦 216 例の初診時クラミジア

抗体保有状況と分娩結果

(イバザイムによる)

	I g A (+)	I g A (-) I g G (+)	I g A (-) I g G (-)	合 計
正 期 産	10	27	92	129
過 期 産	0	0	2	2
自 然 流 産	1	2	11	14
早 産	0	3	8	11
双 胎	0	1	2	3
死 産	0	1	0	1
小 計	12	34	116	162
転院・中絶	7	11	36	54
合 計	19 8.8%	45 20.8%	152 70.4%	216

表 6 早産症例のクラミジア抗体

保有状況と生下時体重

クラミジア抗体	症例数	LFD	AFD	SFD
I g A (+)	8	0	7	1
I g A (-) I g G (+)	31	0	27	4
I g A (-) I g G (-)	72	1	58	13
合 計	111	1	92	18

(1) 特に SFD 率が高いということはない。

(2) 正期産群と比べて I g A 保有率、I g G 保有率に差を認めない。

表 7 Premature P R O M 症例のクラミジア

抗体保有状況と生下時体重

クラミジア抗体	症例数	A F D	S F D
I g A (+)	4	4	0
I g A (-) I g G (+)	14	13	1
I g A (-) I g G (-)	32	27	5
合 計	50	44	6

Premature P R O Mに限っても早産と同じ結果であった。

表 8 子宮外妊娠症例のクラミジア抗体

保有状況と着床部位

クラミジア抗体	卵 管	間質部	卵 巢	腹 腔	頸 管	合 計
I g A (+)	8	0	0	0	0	8
I g A (-) I g G (+)	12	1	0	0	0	13
I g A (-) I g G (-)	13	1	2	2	1	19
合 計	33	2	2	2	1	40

子宮外妊娠患者では一般妊婦に比べ、有意に抗体保有率が高い結果を

得ました。

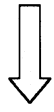
表 9 H T L V - I キ ャ リ ア 妊 婦 の

分 娩 結 果 と 母 乳 遮 断 率

	人工栄養	母乳栄養	凍結母乳	検査希望時	他	計
正期産	18例	7例	1例	2例	0例	28例
早産	2例	0例	0例	0例	0例	2例
流産	／	／	／	／	4例	4例
計	20例	7例	1例	2例	4例	34例

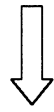
母乳遮断率 75%

流産率 11.4%



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:築地産院を受診した妊婦を対象に梅毒,B 型肝炎,C 型肝炎,クラジミア,HTLV-I の疫学調査を行なった。